

2018年に寺西さんが英国女王技術賞をFossumと一緒に受賞していることを知りびっくりしてからもう4年になります。

まだまだ発明協会では、「学会で萩原が賞を受賞し社会認知されていない」との理由で発明協会の公式HPの記載では事実誤認記載のままで訂正されていません。

現在でも「PPDの発明はもとNECの寺西の1980年の発明である」と事実誤認記載の内容を2018年からそのままに発明協会の公式HPでは記載されています。

この事実をSONYも半導体産業人協会も無視して静観しています。冷たいです。

萩原の名誉のためにわざわざ発明協会に反論する「おせっかい」行為は「大人」として避けて、論争しない、「ことなかれ」主義を通しています。

こんな理不尽なことが平気でまかり通る社会風潮かと思うと寂しいです。

使い捨てにあった技術者が中国や海外に流出してもおかしくないと感じています。

発明者や初期の開発者が遠い昔のことで若い世代には忘れ去られている現状が寂しく感じます。現在日本は「技術イノベーション」という流行語をいろいろと論評していますが、要するに技術者を部品扱いしてきた事への反省は日本政府も日本企業もまったくないと痛感します。

今、SONYがあるのがそんな中で日本企業で一番井深さんの自由闊達な技術者の楽園の仲間意識が今も強い企業として健在しているからではないでしょうか？

だから萩原のような老兵もこの9月30日に第3回目になりますがSONY熊本テックを訪問し、SONY熊本テックの若者にお話し雑談を楽しくお時間をいただけたと理解しています。社会的にはまだまだ萩原の発明は認知されていませんがSONY社内では英雄扱いされていることに萩原はすごく幸せな気分で非常に満足しております。

今回整理してCALTECHの同窓生で友人の2人とIEEEの学会でよくお付き合いしていた教授と現在相談しています。洛星同窓会の友人とも相談していますがしかし専門性が異なり、萩原の仕事である半導体電子産業の技術内容は評価できません。

イメージセンサーの専門家が世界ではほとんどもういません。

日本ではSONY一社に現在技術陣が集中しています。

他社はライバル企業でSONYの発明に関しは利害が異なり萩原を応援してくれません。

所詮、皆様にとっては他人ごとですので、友人が関心を持ってもらえるだけでも今は萩原にとっては励みになります。SonyのTopは、たいへん今は無関心ですが、